

陳情第205号	受理年月日	令和6年9月2日
付託委員会	建設建築委員会	
件名	初代門司駅の遺構の保存と活用について	
<p>要旨</p> <p>私は現在、小倉南区に在住しているが、門司区（旧門司市）の門司港地区で生まれ育った者である。先日、1891年（明治24年）に開業した初代門司駅の鉄道遺構を、北九州市が取り壊して、そこに門司区役所などの老朽化した施設を集約した複合公共施設を建設する計画であるとの報道に接し、驚くとともに心を痛めている。</p> <p>市のこの計画に対して、日本イコモス国内委員会は、初代門司駅関連遺構を保存するように市に要請し、さらにイコモス本部が緊急要請「ヘリテージ・アラート」の発出を検討しているという。イコモスの評価では、発掘された遺構は保存状態がよく、国史跡に値し、まだ発掘されていない部分にも遺構は広がっていることは確実で、世界遺産に推薦する価値があるとのことである。門司が明治以降の日本の近代化の出発点になった地の一つであることを誇りに思っている私も、イコモスの評価に同感である。1914年（大正3年）に、初代門司駅の位置から100メートルほど海側に第二代門司駅（現門司港駅）が建設されてからも、初代門司駅の遺構が今日まで保存されて来たということは、大正、昭和、平成の時代にわたって初代門司駅の重要性を認識できる人々がいたからであると思う。令和の時代になって、門司の歴史に疎く地元愛の薄い人たちによって初代門司駅の遺構の取り壊しが計画されていることを知り、地元出身者としてそのような計画は容認できないので、以下のように遺構を保存し活用することを提案する次第である。</p> <p>1. 初代門司駅関連遺構は、すべて現在のまま将来にわたって保存すべきである。すぐそばには九州鉄道記念館があり、また近くには先にも述べた第二代門司駅（現門司港駅）もあるので、これらと連携させることによって、門司港レトロの観光客にも門司の成り立ちと、門司の地の歴史的意義とを正しく理解してもらえらるであろう。このように観光によ</p>		

(続 く)

る門司港地区の活性化に役立てることができるであろう。大正、昭和、平成の時代に生きた先人たちが今日の我々に遺してくれた地域の貴重な遺産を、今こそ地域のために活用する時であると思う。

なお、1942年（昭和17年）の関門鉄道トンネルの開通に伴い、門司大里地区に新たに第三代門司駅（現門司駅）が建設されたために、第二代門司駅が「門司港駅」と改称されて現在に至っている。

2. 老朽化した公共施設の建て替えの問題については、建て替え予定の施設のうちの一つである門司市民会館の場所に複合公共施設を建設するのがよいと考える。この場所であれば、大通りに面しているし、近くに西鉄バスの路線も通っており、交通の便がよく、不便ということもない。また、老松公園に隣接していて環境的にも申し分ない。さらに、位置的にも門司港の町のほぼ中央に位置しており、近くには老松市場や東門司の商店街（旧日の出町通り商店街）もあり、門司港地域全体の活性化の観点から言えば、複合公共施設を建設する場所としては門司港駅周辺よりもむしろ門司市民会館の場所のほうがはるかによいと思う。